

土壌の構造に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 土壌を構成する固体、液体、気体の三つの相の体積比率の分布を三相分布といい、一般に、有機物の多い土壌は少ない土壌に比べて固相率が高い。
- イ. 土性とは、粒径分布によって分類される土壌の名称であり、砂、シルト、粘土の重量割合から決定される。
- ウ. 土壌水は保水様式によって重力水、毛管水、膨潤水、吸湿水に分けられる。これらのうち植物が吸収可能な水は重力水、毛管水、膨潤水である。
- エ. 土壌の団粒構造が発達すると、保水性、透水性、通気性、根の伸張性が高まり、植物にとって好ましい生育環境がつくられる。

- 1. ア, イ
- 2. ア, エ
- 3. イ, ウ
- 4. イ, エ
- 5. ウ, エ

牧草の品種に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. オーチャードグラスは、一年生のマメ科牧草であり、我が国では採草用と放牧用のいずれにも利用される寒地型牧草である。
2. イタリアンライグラスは、世界の温帯から亜熱帯まで広く分布する一～二年生のイネ科牧草であるが、生育が遅いため、我が国ではほとんど栽培されていない。
3. ローズグラスは、我が国における代表的なマメ科牧草であり、温暖な地域で広く栽培されている。
4. シロクローバは、環境適応性に優れたイネ科牧草であり、我が国で広く栽培されている。
5. チモシーは、耐寒性に優れた多年生のイネ科牧草であり、我が国では北海道における主要な草種となっている。